

令和4年度 ミニ・キエーロモニター事業の実施結果

1 事業概要

土の中の微生物の力で生ごみを分解・消失する生ごみ分解処理容器「ミニ・キエーロ」を使用し、その有効性・課題を検証するとともに、家庭から排出される生ごみ減量の取り組みを普及推進するものです。市内の99世帯で実際にミニ・キエーロを使用していただき、使用実績についてアンケート調査を実施しました。

調査期間：令和4年8月1日～31日 回答数：86

2 実施結果

(1) 処理状況

ミニ・キエーロでの生ごみ処理について、「うまくいっている」が67件、「うまくいっていない」が19件であり、約8割がうまくいっているとの回答でした。

うまくいっていない理由については、「分解しない」が最も多く11件、「手間がかかる」が4件、「臭いが出る」が2件、「虫がわく」が3件、「その他」が5件でした。

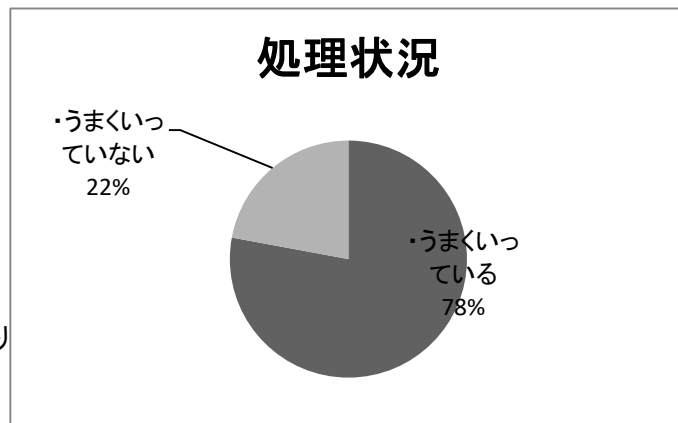
処理状況

・うまくいっている	67
・うまくいっていない	19

うまくいっていない理由

・分解しない	11
・手間がかかる	4
・臭いが出る	2
・虫がわく	3
・その他	5

※複数回答あり



(2) 投入量・頻度

全モニター世帯の生ごみ投入量は、8月の1か月で合計約140kgであり、1回あたりの平均投入量は約190gでした。

投入頻度は「2～3日に1回」が最も多く38件、次いで「ほぼ毎日」が19件であり、平均投入頻度は3.5日に1回（月に換算すると9回程度）でした。

上記から、ミニ・キエーロを活用することで、1世帯あたりひと月約1.7kgの生ごみ削減が見込まれます。

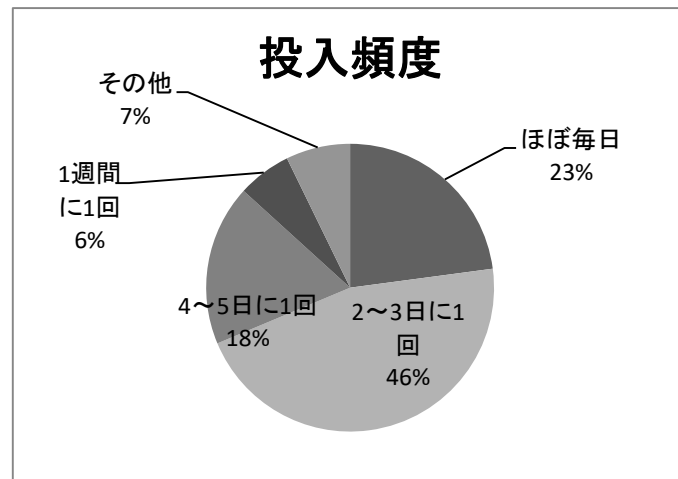
投入量実績(8月)

投入量合計(g)	144,497
平均投入量(g/回)	190

投入頻度

ほぼ毎日	19
2～3日に1回	38
4～5日に1回	15
1週間に1回	5
その他	6

※未回答3



(3) 投入される主な生ごみ

ご飯、麺類、肉の脂身、お茶(麦茶)がら、コーヒーかす、調理油、煮物やラーメンの汁、野菜くず(皮、芯、へた)、果物の皮、魚のあら(頭、骨、皮)、卵の殻 など

※下線を引いたものは分解されにくい又は分解されない

(4) 今後の意向

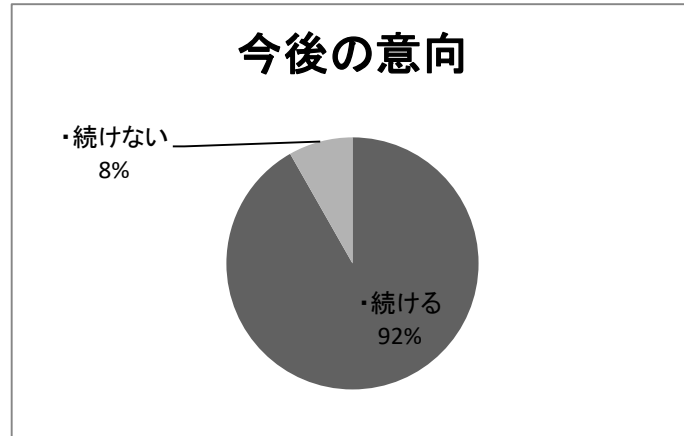
ミニ・キエーロでの生ごみ処理について、「続ける意向である」が78件、「続けない」が7件であり、9割以上が今後も利用を続けるとの回答でした。

(1)で「うまくいっていない」と回答した世帯でも、「続ける意向である」との回答を多くいただきました。またミニ・キエーロでは容量が足りないと感じた世帯の中には、同様の容器を自作するとの回答もありました。

今後の意向

・続ける	78
・続けない	7

※未回答1



【肯定的な意見(うまくいった点)】

- ・ごみが消えることに驚いた。楽しみながら使っている。
- ・ミニ・キエーロを使うことで、生ごみが減って、臭いもなくなり、コバエも減った。
- ・ある程度、水分がある方が分解が早かった。
- ・油やソース、残った汁なども投入できるので、廃棄が楽になった。
- ・投入するものを細かくしているとうまくいく。
- ・ごみ袋を一つ小さいサイズにできた。
- ・調理の際にミニ・キエーロに埋められそうな生ごみは分けておき、投入する習慣がついた。
- ・思ったよりも生ごみが出ていることに気づいた。
- ・生ごみを減らす意識ができた。
- ・気温が高い方が早く消えた。
- ・よく土と混ぜたらにおいもせず、分解できた。
- ・少し手間ではあるが、生ごみの量を減らすことができるので続けていきたい。

【否定的な意見(問題点)】

- ・細かく刻むのが手間。
- ・投入量が多すぎるとうまくいかない。
- ・硬いものは分解に時間がかかる。
- ・たまごの殻は消えにくい。
- ・分解されやすいものとそうでないものを分けるのが手間。
- ・分解が遅い。
- ・虫が湧いてしまった。

3 実施結果から考えられる、ミニ・キエーロをトラブルなく使用するためのポイント

ミニ・キエーロモニター参加者の皆さまにおかれましては、以下のポイントを抑えてミニ・キエーロの使用を継続していただき、引き続き、生ごみ削減にご協力をお願いします。

- (1) 陽あたりが良いなど、**できるだけ温かい場所**にミニ・キエーロを置く。
- (2) ミニ・キエーロで**分解されやすいものを中心に投入**する。
分解されにくいものを投入する際は、分解されやすいものよりも小さく、細かくする。
- (3) 分解できる量は、各家庭の設置状況や天候等に大きく左右されるため、**投入量の調整**を行う。
- (4) 土に穴を掘って生ごみを入れ、**土とよく混ぜて**、掘った土をかぶせる。
生ごみと土ができるだけ多く接することが、早期分解のコツです。
そのために、投入前、もしくは、土と混ぜるときに、できる限り小さく、細かくして混ぜることがポイントです。
- (5) 分解が進まなければ、**水分、油分を調整し、さらに土とよく混ぜる。**
- (6) **深いところに埋め、上に乾いた土をかぶせる**ことで、臭いや虫を防げます。